



世界中で読まれているNAの定期刊行物

THE INTERNATIONAL JOURNAL OF NARCOTICS ANONYMOUS



ナルコティクスアノニマス60周年を祝う

1953年～2013

2013年7月発行
第30号 / 3号

35 WCNA
29 AUG - 1 SEPT
60
NA
2013
THE JOURNEY
CONTINUES
PHILADELPHIA

世界中で読まれているNAの 定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ベルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由にのせられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されていない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

NAは誕生から60周年を迎えている。ここまで歩みを重ねてきたわたしたちは、これからどこへ向かって行くのか。今月号では、現在のフェローシップディベロップメントに関する特集記事、古き良き時代を物語る記事（10ページのポスターにしたいかなような写真をご覧ください）、そしてWCNAに関する記事の回顧集を掲載している。

読者のみなさんの多くが、フィラデルフィアのペンシルバニア・コンベンション・センターで開かれているWCNA 35（第35回NAワールドコンベンション）で今月号を読むことになるだろう。それは、スマートフォンか、タブレットか、デスクトップに配信されるNA Wayマガジンかもしれない。だったら、『ベーシックテキスト』、『なぜ、どのように効果があるのか』、『スポンサーシップ』などのインターネット版NA文献（電子書籍化されたNA文献）も読めるだろう。このほかにもインターネットでは、NAミーティングの検索用アプリケーションによってミーティングを探すことも、わたしたちのサービスに関する経験と資源を共有することもできる。

わたしたちはもうすぐ、NAの最初の書籍が出版されて30周年を祝って『ベーシックテキスト』の特別版を手にすることになる。そして最近出版された『リビンググリーン』はインターネット版が制作中で、伝統に関する書籍が出版に向けて進んでいる。この仲間の集まりが誕生したばかりの頃くらべて、なんとという違いだろうか。それでも、わたしたちのメッセージと第一の目的はずっと変わらないし、仲間たちの情熱も色あせることはないのだ。

ド・J（エディター）

私たちの成長の物語には、必然性のようなものがある。どうみても、今こうしてグリーンでいるアディクトひとりひとりに意図的な運命のようなものが働いているとしか思えないのだ。しかし、それもNAがあったことであり、私たちより先につながった多くのメンバーたちの努力なくしてはありえない……ナルコティクス アノニマスのプログラムによって無償で与えられるものとは、そうしたもののなのだ。このような贈り物をもって当然だと、私たちが考えることがないように願ってやまない。

『ミラクルズ・ハブ（奇跡は起こる）』、『あとがき』より

Electronic subscribers can click here
for exclusive NA history content.

今月の掲載記事

特集記事	3	● 締めめのひとこと	
● フェローシップディベロップメントこそ、伝統1の出番		● コンベンションって柄じゃない	
WCNAに先立つ広報活動		NA60周年記念	10
ミッドアトランティック（中部大西洋）リージョン		● NA60周年記念	
● 共同作業による広報活動		● NA at 60	
● 誠実さ、信頼、尊敬		WCNA「ザ・ジャーニー・コンティニューズ」11	
● ニューイングランドリージョンFD委員会		伝統に関する書籍のプロジェクト	17
● アジアパシフィックフォーラムによるFD		サービスシステムプロジェクト最新情報	17
わかちあい	7	カレンダー	18
● ミーティングがあるから、今がある		NAWS Product Update	19
● ありがとうございます！		Coming Soon	20
● NA全体に影響を及ぼす事柄			
● 心の平安を身につけた仲間			

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

フェローシップ ディベロップメント：

伝統 1 の出番

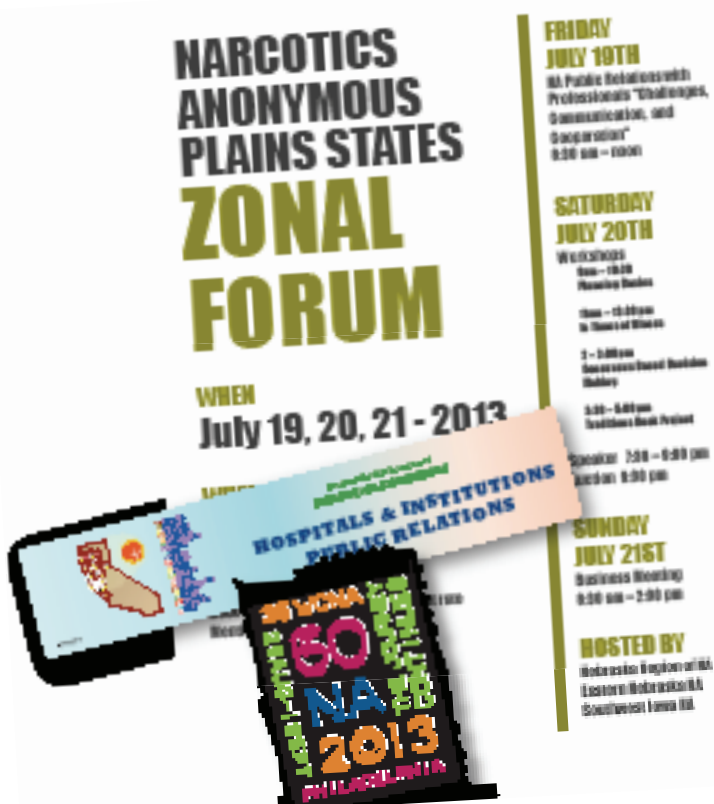
世界のこれまで知られていなかった地域で続々とN Aが誕生していると聞くと、誇らしい気持ちでいっぱいではあるが、F D（フェローシップディベロップメント）はそれでおしまいになるわけではない。誕生したばかりであろうと、成長をとげつつあると、あるいは長い歴史があろうとも、世界中のN Aにとってこれからますますと重要な取り組みになる。フェローシップディベロップメントは、私たちの共通の福利と一体性を大事にすること、N Aの成長を支援すること、そしてグループや地域がN Aのメッセージを運ぶという私たちの第一の目的を実現できるようにすることによって、N A全体のためになる。つまり、メンバーやグループ、サービス機関をはじめ、広い意味で地域のN Aを発展させて強化するためにサービスを提供していくのだ。

地元のメンバーたちが新しいミーティングや悪戦苦闘しているミーティングに参加したり、サービス活動と一緒に取り組んだりすることでN Aの原理を学び実践するのは、フェローシップディベロップメントである。サービス機関が、信頼されるしもべたちを教育して指導することや、自分たちのN Aを支援して育てていくために共同作業をすることも、フェローシップディベロップメントになる。そして、これまでN Aが存在しなかった地域にN Aを定着させるため、メンバーやグループ、サービス機関と一緒に学びながら新たに回復の道を切り開いていくことも、やはりF D（フェローシップディベロップメント）による取り組みのひとつである。そのほかにもF Dでは、アディクトたちがナルコティクスアノニマスで回復の道を歩むことができるように、専門家や政府機関や地域社会との関係を築くべく、地元のメンバーたちと共に広報活動に取り組む必要がある。

一部の地域では、F Dに関するサービスを提供するために、エリアサービス委員会にF Dもしくはアウトリーチ小委員会を設けている。これによって、エリア内の新しいグループや存続の危機に瀕しているグループは支援を受けられるようになる。その一方、近隣のグループやエリアが結集して自分たちのN Aを発展、強化するために取り組んでいる地域もある。そして、さらに広範囲にわたる地域であったり、すでに活動しているサービス機関やN AとのつながりがないN Aである場合には、リージョナルサービス委員会、ゾーン、N Aワールドサービスによってフェローシップディベロップメントに取り組むことができる。このような取り組みは、新しい地域にN Aを定着させたり、N Aの誕生を支援したりすることに役立つ。フェローシップディベロップメントの目的は、私たちのプログラムが回復を求める人たちにとって実行可能な選択肢のひとつであると認められるように、N Aの育成と強化を図ることなのだ。

私たちがN Aで行うサービスでは、つねに十分なプランニングと準備をしたうえでスピリチュアルな原理を支えとして取りかかることが役立つ。それはフェローシップディベロップメントという取り組みであっても、同じである。フェローシップディベロップメントにとってきわめて重要な原理としては、セルフ・サポート（自立）、自律、一体性、善意、心を開くこと、信頼、謙虚さなどが挙げられる。信頼されるしもべたちは、メッセージを運ぶこと、メンバーやグループのアノニム性を尊重することの兼ね合いがうまくいくように努力している。F Dに着手する際には、メンバーやグループが自分たちのN Aほどには「育っていない」ようにみえたとしても、そのことに先入観をもたなければ実り多い経験になる可能性がある。

たとえば、私たちは善意をもって裁こうとせずメンバーたちに接したいと思う。グループやサービス機関はさまざまなやり方で活動するのだから、自分たちが支援しようとしているグループや委員会を仕切るのはフェローシップディベロップメントというサービス活動の仕事ではない。そんなことをしなくても、私たちが道具



を提供すれば、支援しようとしているメンバーたちや信頼されるしもべたちは自ら解決策を見出せるのだ。それによって、メンバーやグループをはじめとして発展途上にあるNAは、自分たちには自立する能力があることや、自分たちの貢献によって自立というNAの原理をはっきり示す方法があること認められるようになる。しかるべきサービスの道具と支援によってメンバーやグループに自信をもたせることは、フェローシップディベロップメントにしっかり取り組むうえで重要な基盤になる。私たちがメンバーやグループを丁寧に支援することができれば、今も苦しんでいるアディクトたちにもっと効果的にNAのメッセージを運ぶ良い機会を、メンバーやグループに与えることになるのだ。

フェローシップディベロップメントに着手する前には、計画を立てているんな案の優先順位をつけ、利用可能な資源によって支援を受けることができるようにすることも重要である。私たちは必要なことがわかっていると思いつまらずに、現時点での課題と希望を特定するために地元のメンバーたちを話し合いに参加させて現状を評価するのだ。『プランニング・ベシックス』があれば、枠組みを作って綿密な計画を遂行することができる。

NAでは自分たちより大きなものに参加することで、メンバー、グループ、サービス機関、NA全体という順でそれぞれがそれぞれより大きな全体の一部であるということを再確認させてもらえる。私たちはフェローシップディベロップメントによって、自分自身の回復を深めながら世界に広がるNAの成長と発展に貢献する。それは、ナルコティクスアノニマスが実行可能な回復のプログラムとして普遍的な認知と尊敬を得るという私たちの未来像を支援することでもあるのだ。

フェローシップディベロップメントは、なにも「よその」国でだけおこなわれるものではない。NAなら、機会はどこにでもあるので、メンバーやサービス機関は私たちの第一の目的を実現するために絶えず努力している。NA Wayマガジンでは今月号から何号か続けて、世界各地のNAで行われているFDに関する（以下にあげたような）経験を分かちあっていくことになる。

・いくつものNAが、州全体の（保健）医療機関、アディクション治療施設、刑事司法機関との関係を強化している。

・エリアおよびリージョンのサービス委員会が、地元のメンバーたちへの定期的なサービスの指導にもなるように会議を体系化する。

・いくつものNAとサービス機関が集まって共同作業をすることにより、新しいNAや誕生しつつあるNAを定着させて、発展と強化をはかっている。

・NAメンバーたちが、遠隔地のミーティングや悪戦苦闘しているミーティングを支援している。

・近隣のサービス機関が重複しているサービスを識別したうえで共同作業を行い、自分たちの資源をこれまで以上に効果的に利用しながら自分たちの取り組みを拡大する。

・ホームグループが、自分たちのミーティングで感じられる回復の雰囲気や定期的な評価して改善する。

・サービス機関が、地元のメンバーやグループと交流をはかる革新的な方法を探って実行する。

以上は、さまざまな地域のNAがフェローシップディベロップメントに貢献する方法の一部に過ぎない。こうしてNA Wayマガジンの誌面で世界中の仲間たちとわかちあえるように、みなさんのNAによるFDの経験やアイデアや成功例などを、ぜひ、お知らせいただきたい。宛先は、naway@na.org とする。

NAワールドサービス社製

NAミーティング検索アプリ（アプリケーション）

世界のどこであろうと、NAミーティングが見つかる！

『今日だけ』の黙想も掲載されています



Android

このアプリは、どちらの業者に対しても支持や提携の関係となるものではありません。



iTunes

WCNAに 先立つ広報活動 ミッドアトラン ティックリージョン (中部大西洋 リージョン)

わたしは最近、州の矯正局や薬物アルコールプログラムに携わる治療の専門家たちと会談する機会を持ちました。これは、共同の取り組みの一つだったのです。NAワールドサービスのWCNA（NAワールドコンベンション）に先立つ広報活動の一環で、わたしはミッドアトランティックリージョンのRD A（リージョン副代表）として招かれました。このような会談に参加することになって、わたしは緊張していました。アディクトで、ナルコティクスアノニマスのメンバーでもあることで、政府機関の関係者から早まった判断を下されるだろうという認識があったからです。私たちの多くが、政府機関の関係者と良好な関係をもっていなかったり、何らかのかたちで嫌な経験をしてきました。わたしもそうですから、わたしたちの第一の目的を進めていくためにどうやって協力すればいいのかわからない、見当もつきませんでした。

それが、どちらの機関からも歓迎を受けたことで、わたしは嬉しい驚きを覚えました。どうやら、裁かれることを恐れて先入観をもったわたしのほうが、相手よりずっと無礼なことをしていただいそうですね。わたしたちが会談した人々は、わたしたちの回復のプログラムが実行可能なものであることをかなり尊敬の念をもって信じていたのです。ここで会った治療の専門家たちは、わたしたちと同じ抱負を語っていました。それは、アディクトたちがミーティングにつながれば、使いたい欲求がなくなり、新しい生き方を見つけていることができるだろうということに他なりません。

裁かれること以外にもわたしが気がかりだったのは、こうやって一緒に活動することでこのような政府機関を支持することになるのではないかということでした。でも、どちらの関係者たちも、わたしたちの伝統を守ることや境界線を踏み越えないことに、とても心をくだいてくれました。今のわたしは、このようか政府機関がナルコティクスアノニマスのプログラムを支持していること、ナルコティクスアノニマスがこのようか政府機関を支持することとは、同じではないのだとわかります。わたしは、アディクトたちが回復を見出す助けになりたいという願いを共有する人々の力を借りて、ひとりでも多くのアディクトたちに手をさしのべることができるのをとても楽しみにしています。

キャシー・M リージョン副代表

(ミッドアトランティックリージョン/アメリカ合衆国)

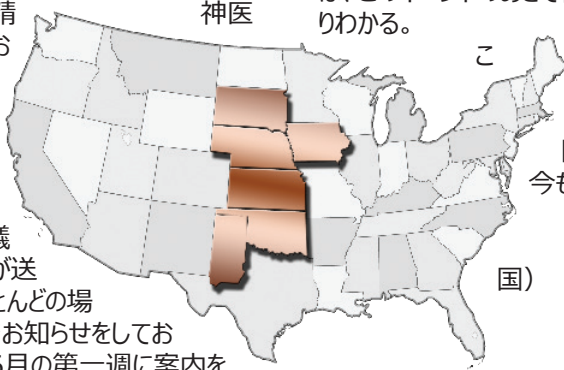
共同作業による 広報活動

2013年7月19日の午前中に、P R（広報活動）の説明発表会が行われた。このイベントは、イースタンネブラスカ、サウスウェスタンロウエリアズ、ネブラスカーリージョン、プレインズステイツゾーンによる共同作業の一つである。N Aと地域社会との食い違いによって私たちのサービス活動が何年も停滞してしまっただけ、あるエリアのP R（広報）会議でどうすればこの食い違いをなくすことができるかと話し合ったことから、このようなイベントが生まれた。来たるプレインズステイツゾーンフォーラムを主催するにあたり、広報活動の一体化に向けて私たちのもてる力を出し合おうということになったのだ。

私たちは、チラシを作成してN Aの内外で配布した。そして、オマハ／カウンシルブラフスの首都圏で9つの郡にある法執行機関（警察）、矯正機関、麻薬裁判所の当局者たちをはじめ、同じ地域にある医療施設や精神医療施設、治療および解毒施設のほか、現時点で私たちが広報活動で接触のある機関にも、このチラシと招待状と議事録などの資料が送られた。これはほとんどの場合、まず電話でお知らせをしておき、2013年の6月の第一週に案内を発送し（ほとんどはEメールによって送られた）、7月の1日ごろになってもう一度あらためてEメールや電話によってお誘いをかけることにした。このような手順を踏めば、参加者がどのくらいの人数になるかははっきりつかめるので、イベントの企画を立てやすくなる。私たちは、現在150人ほど収容できるスペースを確保しているが、必要であればスペースの拡張も可能である。

これからも、さらなる気づきが与えられるだろう！

マーク・B リージョン代表
(ネブラスカーリージョン／アメリカ合衆国)



Plains States Zone

誠実さ、信頼、尊敬

カリフォルニア州の刑事司法制度と交流をはかることによってN Aのサービスに携わることは、非常に貴重な経験になった。俺は現在、4年近く活発に活動しているN Aのサービスグループのメンバーとなっている。俺たちより先に信頼されるしもべとなったメンバーたちが基礎を築いてくれたので、俺たちは成果をあげることができたのだ。俺たちの明確なガイドライン（指針）とたゆまぬサービスゆえに、ボランティアとして出入りすることに対する長年の規則が改善された。カリフォルニア州矯正局の職員たちは、N AのしていることとN Aがどう役立つかということについて教育を受けたのだ。

情報のやりとりと指導、そして献身的なサービスによって忍耐と謙虚さを身をもって示すことで、これまで以上に多くのアディクトたちが矯正施設内でサービスに関わるための許可を得られるようになった。つまり、矯正施設内で開かれるH & I（病院施設）のミーティングが増えて定着しつつあるというわけだ。こうして、カリフォルニア州のN Aボランティアたちがメッセージを運ぶためにやってきて、翌週もまた姿を見せることによって、施設のなかでまだ苦しんでいるアディクトたちがグリーンになるチャンスが増えた。

長年にわたるこの取り組みを通して、カリフォルニア州は何度かこれまでに前例のないことをして俺たちの度肝を抜いた。たとえば、塀の中にあるアディクトたちがN Aワールドコンベンションを締めくくるスピーカーのわかちあいを聞けるようにするために、2011年のユニティデイの呼びかけには州内の全刑務所が参加した。これによって、塀の中にいるアディクトたちの多くの人生が変わった。それは、このイベントのあとで書かれたものや、私たちが直接やりとりしたことからもはっきりわかる。

こうして誠実に関係を築いていくことでN Aに対する信頼と尊敬が深まり、州内はおろか連邦や国という範囲でも円滑な関係を築くために多くのドアが開かれた。つまり、このような取り組みによって前向きな関係が築かれていけば、俺たちは第一の目的を達成することができ、今も苦しんでいるアディクトたちにメッセージが届くのだ。

ジェローム・P
(ノーザンカリフォルニア H & I [病院施設] 広報／アメリカ合衆国)



私たちが共同で行うサービスの取り組みとは、ほかのアディクトたちが回復を見出す手助けすることに他ならない。そうしてメンバーたちが協力してN Aの第一の目的を推し進めたからこそ、N Aは1950年からずっと成長を続けてきたのだ。私たちの多くが、N Aミーティングにやってくるアディクトたちに回復のメッセージを伝えるグループの力をよく知っているの、サービスに関わっているメンバーの集団を同じように利用する。そして、メンバーたちがN Aの共通の福利のために自分の望みや要求を脇に置けば、伝統1が働くのがわかる。私たちが暮らす地域社会にもっとN Aの存在を知らしめ、NAが実行可能なプログラムであることを示すために協力することは、アディクトたちがN Aの回復を見いだす役に立つだけでなく、私たちの一番目の伝統に記されている一体性を実践する強力な方法になるのだ。

『パブリックリレーションズ（広報活動）ハンドブック』、「第12章 フェローシップディベロップメント」

ニューイングランドリージョン F D 委員会

回復の道を歩むアディクトたちがひとつにまとまってサービスに携わる時には、素晴らしいことが起こる。ニューイングランドリージョンでは、3つのアイデアを融合するフェローシップディベロップメント委員会を結成した。私たちのリージョンの代表団に求められることについては、特別委員会が開かれて、エリア内のメンバーを交代でRSC（リージョナルサービス委員会）に参加させる方法が検討されていたが、それ以外にも解決策があることがわかったのだ。

私たちはまず、ニューイングランドリージョンにある（2つの島にあるエリアを含めて）13のエリアがそれぞれ、少なくとも2年に一度は交代するという計画を考案した。この交代周期はWSC（ワールドサービスカンファレンス）の開催周期と同じであるため、WSCに先立つCAR（カンファレンスアジェンダレポート）に関するワークショップと、WSC終了後の総括をするミーティングを取り入れた。

次に、私たちのリージョン代表団は、リージョンに参加しているエリアでの話し合いや研修会で議事進行役を務めることが多いため、そのような週末に行われるリージョナルミーティングでは毎回、フェローシップディベロップメント委員会が議事進行を努めることを提案した。ワークショップは、決まった一連のテーマ（たとえば、NAの検討すべき課題や、サービスパンフレットに関するテーマなど）にもとづくものであったり、あるいは、開催エリアで関心がもたれたり懸念されたりしていることを具体的なテーマとするものであってもよいだろう。（このほかにも、エリアやグループでは、リージョナルミーティングの開かれる週末以外にもさまざまな研修のセッションを時々開催するように要請できる）



最後に、FD創立にあたっては、FDのサービスに関わってもよいと思うメンバーのほかに、歴代のリージョン代表者たちも創立メンバーになってもらうようにした。こうすれば、さまざまなワークショップや追加の研修要請を交代で実行しやすくなるだろう。そしてまた、歴代のリージョン代表者たちにかわり続けてもらえれば、その長年にわたる経験から恩恵を受け続けることができるのだから、これは素晴らしいやり方だと考える。どちらにとってもメリットのある状況というわけだ。

ジェイム・V リージョン代表（ニューイングランドリージョン/アメリカ合衆国）

アジア パシフィック フォーラム F D NA

ワールドサービスでは、文献とセッションの資料を提供することによって、世界中で行われているさまざまなFDの取り組みを支援している。この1年間では、かなりの数のAFPの旅があった。そのいくつかを以下に記しておく。



インド（カルカッタ）のメンバーたちは、シッキムへ赴いた。シッキムでは、有罪判決を受けたアディクトたちに過酷な刑罰が課せられるため、社会復帰や、仕事を獲得するのが困難になり、回復することがそれほど価値のある選択肢とは思えなくなっている。

ダージリンのインディアリージョナルコンベンションでは、ワークショップにもすごい数の出席者が押しよせた。この地で開かれるワークショップが「対話式セッション」と呼ばれていることも、その理由のひとつであった。チエンナイコンベンションでも同じく、「NAの女性たち」をはじめとしていくつか想像力に富んだテーマがみられた。

2012年10月には、AFPのメンバーたちがインドネシアのバリ島で開かれたNAWSのワークショップを支援した。

イランのメンバーたちはイラン国内で地元のFDワークショップを開催するとともに、アフガニスタンにも出向いて地元のサービス活動やエリアミーティングを体系化するのを支援した。

日本のメンバーたちは、ひきつづき韓国を訪れている。バーレーンのメンバーたちは、カタールでワークショップを開催した。NERF（ノースイーストリージョナルフォーラム）のメンバーたちはノースイーストインド（インド北東）の遠隔地域であるシルチャルおよびミズラムを訪れた。そして、インドネシアとシベリアからはすでに、今後数か月の間にAFPによるFDの援助を行ってほしいという要請がきている。

NA Wayマガジンに

記す

回復の旅

みなさんの物語、アイデア、意見、経験、アート作品、写真、グラフィックデザインのほか、お好みの伝え方で、ぜひ自分のことや自分の回復の旅をわかちあっていただきたい。

さらに詳しい情報は

www.naway.org

Eメールによる投稿の宛先は

naway@na.org.



ミーティングがあるから 今がある

あたしはこれまであきもせず、せっせとミーティングに通った。いくら通ってもイヤにならない。ミーティングには仲間との一体感や、ユーモアや、悲しみがあるでしょ。それがたまらないのよね。そして、わかちあいは、強さと勇気がもたらされる。仲間たちの話にしっかり耳を傾けていると、みんな大変な思いをしながらグリーンでいるんだってわかるもの。そのおかげで、あたしも人生にふりかかる試練を生き延びることができるのだし、仲間たちと心を通わせていけば自分のこともよくわかるようになるわ。アディクトはさまざまな顔を持つ病気にかかっている、忘れっぽさや自己中心というのもその一部。だから、あたしは自分がアディクトであるのをすっかり忘れてしまうかもしれないことを、しっかり頭にたたき込んでいる。それを忘れたら、自分の過去が自分の将来になる道をまっすぐらなもの。

アディクトはどんな薬物も使うことはできないのだから、アルコールも例外じゃないのよね。それは、常日頃からしっかり自覚してなくちゃいけない。あたしは生活の一部として、イベントなんかで酒飲みたちとつきあうことがあるからよ。それで、以前に近所で休日のパーティがあったときに、あたしはお酒の入ったグラスを手にとっちゃったの。でも、きちんとミーティングに出ていたので、誤って破滅（リラプス）することなんてありえないってことを忘れていなかった。頭のなかでは、「スー、飲んじゃえ」という声はしたが、とるべき道ははっきりしていた。リラプスして薬に溺れる道に向かうか、回復の道に向かうか。あっさりとは決まらず、お酒のつけ込むときはなかったわ。

大きな外科手術のように大変なことを経験することになるとわかっているときには、ミーティングに出る回数を増やすの。こうしておけば、自分を裏切ろうなんてとても思えなくなるので、手術のあとで麻薬を投与されても生き延びることができる。だから看護師に向かって、「ねえ、だいぶ薬になったから、もう鎮痛剤を使わなくても平気だと思うわ」って言ったのよ。そんな言葉が出てくるなんて、自分でもビックリ。あたしの頭にあるのは「もっとなんか！」だけだもの。使いまわっていたときには、外科手術を心待ちにしていたわ。麻酔ですっかり意識を失っていられるなんて、最高だったわ。それが今じゃ、目が覚めるかどうか気になる。だって、リラプスしないか心配なもの。

そして、つねに気をゆるめず、自分はどんな薬物も使えないことを忘れないようにする以外にも、あたしは自分にとらわれないようにしなくちゃ。うっかりすると、自分の肩の上に乗っかっているのが頭じゃなく、巨大なカボチャであるかのように思いこんでしまうからよ。でも、ほかの人がわかちあうのに耳を傾けていけば、そのカボチャがしぼんでいってようやく我に返るというわけ。それでもう一度、人間の仲間入りができる。その方が、心が凍りついた状態に逆戻りして頭の中に閉じこめられているより、ずっと居心地がいいもの。

グリーンで過ごせるようになって、あたしは旅行が好きになったわ。これまでに世界各地のNAミーティングに出席し
いのよね。それによってほかの文化を内側からのぞき見る
なんてもったいないじゃない。

ころだけど、あたしは今でも週に3回はミーティングに出
し、もっと多く出ることもある。そうじゃないと、ちょっとした
ことであつという間に調子が狂ってくるのよ。腹を立て
て辛抱がきかなくなり、全体を見わたす視点を失って
しまう。これまで定期的にミーティングに出なかったのは、
ミーティングがないところをいたときだけだった。そういう
ときには、文献やテープで何とかするしかないのだけど、だ
からこそミーティングに戻れるのは嬉しい。それがホーム
グループや、ホーム以外でも普段出席しているミーテ
ィングなら、言うことないわ。

これまで回復の道を歩むなかでは、サイテーの状態
を何度も経験したわ。現実をあるがままに生きるって
時期だけでなく、困難や試練の時期にも直面しなけ

as long as
I am clean

ればならないということなのよね。それでも、クリーンでプログラムに取り組んでいるかぎり、実に多くのことが可能になるゲームから下りないでいられた。それは、ミーティングがあればこそなのよね。

スー・H (オーストラリア/シドニー)

ありがとうございました！



僕はアディクトのフェリ。ハンガリーのNAで回復の道を歩んで。僕がつながったのは12年以上前だけど、そのころハンガリーのNAはまだ誕生したばかりでまよまち歩きだった。たった2つの町で開かれるミーティングは数も少なかったし、ハンガリー語に翻訳された文献もなかったんだ。それが今や、NAはハンガリー中に広がっている。8つの町でたくさんのミーティングが開かれているし、今年はフェローシップ承認のハンガリー語版『ベーシックテキスト』もできた。この出版されたばかりのハンガリー語版『ベーシックテキスト』を手にしたときに、僕はうれしくて感謝の気持ちでいっぱいだったよ。NAがあって良かった。ハンガリーのNAをよろしくね！

フェリ・S (ハンガリー/ペーチ) y

NA Way 移動レポーター 募集中

フィラデルフィアのWCNA35に参加を予定しているみなさんのために、まさにうってつけのサービスの機会を提供いたします。NA Wayのカウンターでスタッフの手伝いをし、インターネットで予約した出席者の登録を受けつけて、会場にいる仲間たちの話を取材してみませんか。

応募は、Eメールでどうぞ
naway@na.org

NA全体に 影響を及ぼす 問題

俺が忘れちゃいけないことって、何だかわかるかな？俺は、自分たちがみんなアディクトだってことを忘れてることがある。俺たちのだれもかれもが、のべつまくなしにステップを実行しているわけじゃないってことを忘れてしまうことがある。ミーティングにいる仲間が全員クリーンだとは限らないってことを忘れてしまうことがある。クリーンタイムがすなわち回復というわけではないことを忘れてしまうことがある。俺たちはもっとよく考えないといいってことを忘れてしまうことがある。要するに、アディクトはどこまでいってもアディクトなのに、俺はそのことを時々忘れてしまうってことなんだ。

俺たちのエアコンベンションが開催された週末にかけて、いくつかの事件があった。財布がひとつすね取られ、携帯がひとつ盗まれた。駐車場では、1台の車が「ひっかき傷をつけられて」塗装が台無しになったし、盛大なテールゲートパーティ（駐車場で車の後部ドアを開けて行うパーティ）も始まった。メインミーティングでは一部のメンバーが席を独り占めしていたので、コンベンションの実行委員がやめるように頼むと、悪態をついた。そして、駐車場で花火大会をやらすことをいい考えだと思ったアディクトたちもいた。その駐車場というのが、連邦政府の空域にあたる飛行場のそばであるにもかかわらずだ。

コンベンションには、週末を通して2,000人を優に超えるアディクトが参加していたのだから、俺たちは全体的に見ればかなり行儀よく振る舞っていたとは思っている。

しかし、ことはそれではすまない。車にひっかき傷をつけられた男性メンバーは、「もう二度と来るもんか」と言っていた。席を独り占めしようとした連中から怒鳴られた信頼されるしもべたちは、傷ついて裏切られたと感じたので、もう二度とサービスにはかかわりたくないと思っている。携帯を盗まれた女性メンバーは、自分の責任を理解しているので戻ってくるだろう。だが、ホテルは、俺たちのコンベンション実行委員会から花火大会の件で500ドルの罰金を取るか取るまいか、考えあぐねている。そして地元の警察は、俺たちのことをフリーガン（ごろつき）の寄せ集めだと思っている。地元でもう、俺たちには二度と戻ってきてほしくないと思っているだろう。

俺たちは、これはひとりの人間が犯した愚行に過ぎないことを説明しようとしたが、警察もホテルも聞く耳をもたなかった。世間の目で見れば、俺たちはみんなどいつもこいつも愚かで節操のないアディクトの団でしかなく、そんな連中は回復するわけがないと思われてしまったのだ。

俺たちは群れになるところやって暴走するが、だからと

いって、以前のように地下に潜ってひと目につかないようにしているべきなのか？ そんなことはない。俺たちは立ちあがって存在をアピールするという選択をした。もちろん、自分を売り込むのではなく、人を惹きつけるというやり方だ。けれども、その惹きつける魅力が、2000人の群衆になった俺たちのうちの一人によって台無しにされてしまうことがある。

俺は月曜に一日中寝て過ごしたあと、夜になってようやくNAのミーティングにたどりつくことができた。そのミーティングは、教会で開かれていた。この教会では、このグループのミーティングが数回開かれるだけでなく、ほかのNAの行事も行われていた。そして、NA以外にも、学校の授業が何回か行われていた。グループのセクレタリーは、喫煙者は用意されているカンに吸い殻を捨てること、そうでないとNAはこの教会を使用する権利を失うだろうと伝えていた。

俺が喫煙コーナーまで行ってみると、地面のあちこちに吸い殻が散らばっていた。もちろん、吸い殻が自分たちのものかどうかなんて、だれにもわかりやしないさ。しかし、肝心なのは、俺たちがある会場で集まるようになったら、その会場の設備がきちんとされているようにしておく必要があるってことだ。そうでないと、俺たちは集まる場所を失うというリスクを負うことになるんだ。

それで、俺は何ができるのか。アディクトは時々アディクトならではの振る舞いをするということを忘れないでいることができる。そして、社会の一員として責任を果たそうとするなら、ものごとを正しくしておくために最善を尽くすことができる。だから、俺は自分が捨てたわけじゃなくても吸い殻を拾えばいいんだ。そうやってどこへ行ってもだれと会おうと、仲間たちとナルコティクス アノニマスに敬意を払って行動することはできるんだからな。

少なくとも俺は、自分のエリアや自分の愛するNAという仲間の集まりの役に立てる機会があることに、感謝している。仲間のアディクトたちが正しいことと反対の行動を取れば、俺は傷つき、自分を傷つけた連中に殴りかかってやっつけてやりたくなるが、でも、俺は忘れちゃいけないんだ・・・

ケビン・L (アメリカ合衆国/カリフォルニア)

NA Way マガジン 2004年4月号掲載

Electronic subscribers
can click here for
additional content.

心の平安を 身につけた仲間



やあ、NAの仲間たち。おれは、ソール。このタワーは、おれが仲間と彫ってやったんだ。リトアニア語による「平安の祈り」だけ。この仲間とおれは、ガキの頃からの親友だが、今じゃNAでも一緒だ。みんなが、この写真を見て楽しんでくれるといいんだがな。じゃ、みんなも元気でやってくれ。これからも歩み続けていこうぜ。そうすりゃ、きつうまいくさ。

ソール・L (リトアニア/ヴィルニウス)

締めめのひとこと

毎回、アジアパシフィックフォーラムの閉会式では、それに先立つ4日間にあった回復やサービスにまつわる個人的な経験や集団での経験について、参加者ひとりひとりがわかちあう。こうしてわかちあわれる素晴らしい考えは、その後、APFファイナルワード (AFPを締めくくる言葉) という項目に収められることになっている。つい最近開かれたAPFを例に見てみよう。

幸せな、希望、強さ、一体性、新しい感情、勇気、知識、愛、感謝、価値、謙虚さ、教育を受けた、恩義がある、社会的な力をつける、歓迎される、友情、素晴らしい人々、展望、感謝、恐怖と向きあう、安心できる、親密な間柄、スピリチュアル、自由、愛情と感謝の気持ち、愛情と感謝の気持ち、愛情と感謝の気持ち

コンベンションって柄じゃない

やあ、おれはキャンシレ。回復の道を歩むアディクトだ。クリーンになって6年ちょっとだな。トルコにナルコティクスアノマスが誕生して4年くらいか、おれは初めてイスタンブールのニシャンタシュにあるミーティング会場に足を踏み入れ、ついに27年に及ぶスリ漬けの状態からクリーンになったんだ。あの当時は、回復の道を歩む仲間はほんのわずかだったが、みんな歩みを止めることはなかった。

おれたちの小さなNAでは、コンベンションを開催するのが夢だった。それは、画期的なことに思えたんだ。小さいながらも熱狂的な国に住むアディクトの小さな集まりが、回復に生きるためにベストを尽くそうとしているうちに、そんな夢を持つとこまで来たんだからな。12ステッププログラムといっても、おれたちの社会にはちゃんぶんかんぶんだった。おれたちは孤独だったんだ。

ホームグループの仲間から電話があって、コンベンションのために意見を提供してほしいと頼まれたとき、おれはイスタンブールから離れていたが、「一役買える」ことにすごく誇らしい気がした。

コンベンションの実行委員会は、活動を開始した。日程が決まったところで、おれは心が決まった。イスタンブールへ行ってコンベンションの雰囲気に入ることにした。これは、コンベンション開催される7か月前ぐらいのことだった。

その当時、おれは金銭面で厄介な問題に直面していたが、それを自分の手から離してハイパーパワーの配慮にゆだねた。成り行きにまかせてやっていくことにしたんだ。

するとどういわけか、9月の終わりにおれは奇跡的にイスタンブールにたどりついた。そしてある晩はここへ、ある晩はあそこへ、とどまり続けているうちに10月の17日を迎えた。その日からコンベンションが始まったんだ。

それまで自分はコンベンションなんて柄じゃないと思っていたのに、初日が過ぎるとだんだんコンベンションのことが好きになっていった。回復の道を歩む大勢のアディクトに囲まれて、わかちあい、ハグして、語り合うのはなんともいいもんだ。

今こうして書いていて、実に多くのことが心に浮かんでくる。コンベンションまでの一部始終や、すべてとどこおりに行われるために費やしたエネルギー、そういうことがあっておれたちはようやくひとつにまとまったんだ。

実行委員会のメンバーたちは長い時間をかけて精一杯働き、おれたちの伝統とスピリチュアルな原理にしたがって、コンベンションが最後までとどこおりに開催されるよう運営に尽くしたんだ。その間、おれはほとんどを遠く離れたところにいたのに、みんなはおれに孤独を感じさせたりはしなかったし、ましてイスタンブール以外のところに住んでいるひとりぼっちのメンバーであるかのようにカヤの外に置くこともなかった。おれたちはどうも、心をひとつにしてNAの精神を体現したんだ。世界中からやって来た仲間たちと交流をもつことが、俺たちにとってどれほど意味深いことか、言葉ではとても伝えきれない。

そして今まさに、トルコのNAでは第2回のコンベンションを計画している。2004年の10月にフェティエで開催するんだ。ありがたいことに、おれは新しい生き方に身をゆだねることができたので、今もホームグループのある我が故郷イスタンブールにいる。おれは、感謝の気持ちで回復の道を歩む幸せなアディクトだ。NAがあって、本当によかった。

キャンシレ (トルコ/イスタンブール)
NA Wayマガジン2004年4月号掲載

編集記：ターキー (トルコ) リージョンは、2013年10月に第11回トルコ コンベンションを開催することになっている。それによって、NAトルコは20周年を祝うのだ。



人類の歴史のなかで、初めて一つのシンプルな方法
が多数のアディクトたちに効果を発揮しているから
だ。この方法は私たち全員が手にすることができる。これ
が、シンプルでスピリチュアルな——宗教ではない——プ
ログラムのことであり、ナルコティクス アノニマスのことなのだ。.

[Narcotics Anonymous, We Do Recover.](#)



私たちは1953年の7月に、
このナルコティクスアノニマスをスタートさせた。
『ナルコティクスアノニマス（ベーシックテキスト）』、「私たちは必ず回復する」

60

NA at ~~50~~:受け継がれてきた希望；
明るい未来

編集記：この記事は10年前に私たちがNAの50周年を祝ったときに書かれたものだが、今もなお、私たちの歴史と私たちの未来について力強いメッセージを運んでいる。そしてちょうど10年が経った現在、世界中で毎週開かれているミーティングの数は30,000からおよそ62,000となり、2倍以上に増えている。NAのある国も2003年より23か国も増えて、129か国になっている。

2003年の今となってみれば、私たちの多くがナルコティクス アノニマスのない人生など想像もつかなくなっている。現在、NAで回復の道歩んでいるメンバーたちは、創設メンバーたちが私たちに託したさまざまな夢という遺産を受け継いでいる。私たちは、NAのシンプルな解決策がもたらす奇跡の目撃者である。長い年月をかけて、私たちはみなNA誕生時から言われていたことが真実であることをさまざまなかたちで経験してきた。『アディクトやアディクションそのものの本質を変えることはできないが、もっと多くの人たちに回復を手にしてもらえるよう私たちが努力を惜しまなければ、「一度アディクトになったら、一生アディクトから足を洗えない」という昔からの偽りを正すことができる』のだ。

1953年、カリフォルニアのサンバレーにある救世軍のダッズ・クラブで、NAの回復をわかちあうミーティングが開かれた。あの最初のミーティングから、私たちは仲間の集まりとしてNAのメッセージを運びつつ、多くのアディクトに回復を手にするようにしてもらうことにおいて大きな進歩を遂げてきた。当時でさえ、本人同士が助け合うことによる治療的な価値には説得力があったので、それを文献によってさらに活用するという希望があった。そうやってNAが誕生したばかりの頃にはどんな風であったかと考えてみるといいだろう。当時は、本などない状態でステップや伝統を理解しようとしたのだ。新しい人がつながっても、読んで聞かせたり渡したりするパンフレットすらなかった。私たちを導く道具など、何もなかったのだ。

NAの出版物第1号である『ナルコティクス アノニマス』は、1956年ごろに発行された。8ページからなるインフォメーションパンフレットで、「20の質問」、NAプログラムの概要、12のステップ、カリフォルニアのスタジオシティとサンディエゴにあるグループのアドレスが盛り込まれた。このパンフレットから1962年に『リトルホワイトブック』が誕生したことにより、今日に至る文献作成の歴史が始動したのだ。

だが、そうやって歩み出してから何年もの間は、奮闘や混乱が続いた。NAがカリフォルニアを越えて広がりを見せると、あちこちに散らばってまとまりがなくなり、メンバーたちはよそのグループがどうになっているのかサッパリわからなかった。NA全体で一体性をもつためには何らかの構造が必要だということは、初期のメンバーたちにもすぐわかった。

1975年になって『NAツリー』が発行され、1976年の11月には第1回ワールドサービスカンファレンスが開かれた。そしてNAがひとつにまとまることによって1983年には『ベーシックテキスト』が誕生し、それがこの仲間の集まりに劇的な効果をもたらした。NA誕生から30年目にして、私たちはついにNA全体を代弁すると同時にNA全体に語りかける共通の声をもったのだ。『ベーシックテキスト』のおかげで、ハチャメチャであまりにもまとまりが見えることのある集まりに一体感が生まれ、一本筋が通って目的もひとつに定まった。

この仲間の集まりに一体感をもたらしたのは、文献だけではなかった。コンベンションでアディクトたちが一緒に回復を祝うのを目の当たりにすることは、多くのメンバーにとって素晴らしい体験になる。

1971年には第1回のワールドコンベンションが開催された。もっとも、それは招待状によるコンベンションと呼ばれ、ごくわずかの数の出席者によってカリフォルニアで開かれた。今では、エリアやリージョンのコンベンションでも何千というメンバーが参加することを考えると、比べものにならないほど貧弱なものだった。しかし、ごくわずかであってもアディクトたちが一堂に会して経験と力と希望をわかちあうことができれば、それだけで歩みを止めずにいることができたのだ。私たちには、これほどの幸運はないだろう。

創設メンバーのひとりであるジミー・Kは、1973年にNA20周年を祝う晩餐会の席で、NAの創設期を総括するスピーチをした。「・・・まったく、俺たちはおかしな連中だよな。協力して何かやろうと努力すればするほど、いがみ合ってバラバラになってしまう。そうやって自分たちがまさに築こうとしているものを、自分たちでブチ壊してしまうんだ。そしてほんの数年前までは、それがナルコティクス アノニマスの歴史になっていた。築いたそばから、すぐブチ壊すってわけだ。俺たちはそういう人種だし、だからこそ、回復するためにはそのことを自覚しなければならない。俺たちはひとり残らず、病気の性質、アディクトの性質、回復の性質を心得ておかななくてはならない。こう



いうことはどれも、成長するため、生きるため、そして変わるために欠かすことのできないことなんだ」

そして、私たちは変わった。私たちのサービス構造や文献作成の発達によって、世界中にNAのメッセージを運びやすくなる道具をつくりだした。そしてNAが爆発的に成長することによって、私たちは現在さまざまな課題を突きつけられているが、それをつい10年まえだったらお手上げだっただろう。宗教戦争や、社会格差や人種差別、経済不況によって苦しんでいる国々にNAが広がっていくことで、私たちのプログラムの核心である原理の多くが試される状況に直面している。しかし、12の伝統は私たちがひとつになって協力する力を与えてくれる。だから、実にさまざまに異なる信仰や文化をもったメンバーたちが集まっても、スピリチュアルな原理について議論したあとでハグし合えるのだ。こんな場所など、ほかにあるだろうか。

私たちひとりひとりがグリーンで回復の道を歩む期間が長くなればなるほど、実例としての説得力が増し、社会はNAが提供するべきものを真剣に受けとめるようになっていく。これには、さらに広範囲に私たちのメッセージを運ぶという広報活動やH&I（病院施設）活動による取り組みも一役買っている。

アディクトたちはもう、日陰者になって人目につかないところで活動することを強いられることはないのだ。106以上の国で3万を超えるNAミーティングが開かれるようになった今では、どのミーティングにも自由に参加できる。そして多くの地域で、アディクトたちの治療方法を特別に扱う法律がつくられたり、変更されたりした。全世界の大都市の中心や小さな町はもちろん、世界で最もへんびな地域の一部でも、治療施設が運営されている。アディクトであるという汚名は、いまも私たちについて回ることが少なくはないが、もはや昔からの偽りはもう通用しないことを社会はゆっくと認めつつある。回復の道を歩むアディクトである私たちは、社会に戻ってもきちんと責任を果たして貢献できるようになるからだ。

私たちのビジョンステートメント（理念）の一部には、NAは実行可能な回復のプログラムとして普遍的な認識と尊敬を得るだろうと記されている。私たちはものすごく進歩したが、それでもまだ長い道にあり。歩みを止めないためにも、私たちの多様さと一体性を大切にメッセージを伝える方法を学ばなければならない。

これからの道のり

私たちは、ナルコティクス アノニマスでまったく驚くべき贈り物をいただいた。今日だけグリーンでいることによって、私たちの多くがかつてはありえないと思っていた人生を送る自由を手に入れている。だ

が、現在のNAという仲間の集まりは、生きて呼吸をしながら永遠に自らを維持できるような存在にはなっていない。

それどころか、ナルコティクス アノニマスはすっかりあなた任せになっている。このような仲間の集まりをだれよりも大事にできるのは、他ならぬ「自分たち」なのだ。みんなで力を合わせるにしても、私たちはそれぞれに自分なりの貢献をしなければならぬ。今後も未永くNAが続いていくかどうかは、私たちひとりひとりが発揮する機動力にかかっているのだ。

自分が最後に、新しい仲間へ声をかけてミーティングのあとでコーヒーを飲みにつれていったのは、いつだったのだろうか？

ホームレスの女性が静かにミーティング会場を抜け出したけれど、この女性は自分のような身なりをしていなかったの、ぞんざいにあしらわれたらどうか？ このホームレスの女性をハグして、自分の電話番号を教えたのだろうか？

先月に自分が12番目のステップコールに応じたのは、何回だろうか？ 昨年は、どうだったか？ そもそも自分は、12番目のステップコールがどういうものかわかっているだろうか？

地元のNAに多様なメンバーが集まれるようにするために、自分はどんなことをしているか？

自分は毎週、同じミーティングに出席しているか、それとも、自分の町にある別のエリアのミーティングに出てみようとしているか？

自分たちは、「だれでも受け入れる」という原理に従おうとしているか？ それとも、内輪ウケのようなミーティングのやり方になってしまっているため、新しいメンバーたちはわが家に帰ったと思うところか、大切なミーティングの邪魔になっているような気がしているだろうか？

私たちは、これまで述べてきたようなだれでも受け入れようとする集まりになりつつあるだろうか？ 私たちの文献は、メンバー全員に語りかけるのか、それとも新しいメンバーにだけ語りかけるのか？

ジミー・Kは1973年のスピーチで、続けて語っている。「俺たちは今、かつてないほどの速さで成長しつつある……俺たちは、ひとりひとりがナルコティクス アノニマスのなかで自分の居場所をみつけることで、世界中のアディクトたちに回復のメッセージを運ぶチャンスが増えている。だから、俺たちのひとりとして出し惜しみしてちゃいけない。つまり、このプログラムにとどまるためにしなければならないことをやり尽くすんだ。これは、

生きるか死ぬかのプログラムなんだからな……
・アディクトであるなら、大した度胸があるし、そうでなければここにはいないだろう。だったら、それだけの根性をうまく使おうじゃないか。こうして自分たちがもっているものを元にして、それ以上にもっとましなものを作ろう。みんなも知ってのとおり、俺はもうずいぶん前から何度となく言ってきた。夢を持たない人間は半人前だし、展望のない集まりは、なれ合いでしかないってな。おれは今でもそう思っている。だって、そうじゃないか。俺たちはNAで一日一日を生きていることによって、使っていたときには夢でしかなかったことが叶うんだから、そういう日々を重ねて俺たちの思い描く未来が現実のものとなっていけば、NAという仲間の集まりも存在感を増していくにちがいない。これは、人生を生きるプログラムだ。マジメな話はもうこれで十分だろうから、今晚はゆっくらみんな心ゆくまで楽しんでほしい。それこそが、生きるってことじゃないか」

回復という現実、私たちの遺産だ。グリーンでいること、NAプログラムの原理を実践することによって、私たちはもうひとりの人と希望のメッセージをわかちあう能力が与えられ、その相手がまたもうひとりの人と、そしてさらにもうひとり、もうひとりと、このわかちあいが続いていく。

本人同士が助け合うというシンプルな原理に表れる力は、「世界中のアディクトがみな、自分の話す言葉でわかりやすく書かれたNAのメッセージを目にする機会に恵まれ、それが新しい生き方に踏みだすきっかけになる」ようにするために、私たちの未来像を実現させることができるのだ。

NA Wayマガジン2003年7月号掲載

WCNA: The journey continues

第1回ワールドコンベンション

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ラ・ミラダ 1971

私たちは1970年までには、ロスアンゼルス エリアで10から12ぐらいのミーティングを開くようになった。さらに北カリフォルニアでも2つほどミーティングを開いていたが、当時はNAといえばその程度のもだった。それから1971年になって、ナルコティクス アノニマスでは初めてとなるコンベンションが開催された。私たちは、それをワールドコンベンションと名づけた。なにしろワールド（世界）となれば……やって来たのは、およそ200人。初めてのコンベンションでこれだけ集まれば大したものだった。参加者のほとんどが知り合いの家に滞在した。土曜から日曜の午前中までのわずか2日間のイベントであったこともあるだろう。土曜の夜にはミーティングがひらかれ、私はまずNAのささやかな歴史を語ってから、ジミー・K（NAという仲間の集まりを創設したメンバーのひとり）を紹介した。そして日曜の朝にもまたミーティングを開き、それが終わってから私たちはみな家路についた。

BB (アメリカ合衆国/カリフォルニア)
NA Wayマガジン1988年12月号掲載

第15回ワールドコンベンション

ひとつにまとまって生き延びる

アメリカ合衆国 ワシントンDC ー 1985

私たちが世界にひろがる回復のメッセージをわかちあおうとすることで、またもや、NAがひとつにまとまった。昔からの偽りはもう通用しない。アディクトたちが群れをなして回復しつつあるのだ……ここ2年ほどの間で、アメリカ以外の地域に誕生したNAが続々とワールドコンベンションに姿を現すようになった。昨年は、4か国からの代表がシカゴで催された晩餐会の点呼に応え……そして今年は……英国が大集団となってやってきた……（それにつけてばかりに）カナダ、アイルランド、ドイツ、バハマ諸島、オーストラリア、イスラエルのメンバーたちも参加した。

……1986年WCNAには英国が名乗りを上げ、ロンドンで開催されることになった。アメリカ合衆国以外の地でコンベンションが開かれるのは、これが初めてになる。この開催地決定には、ワシントンDCでも熱烈な盛り上がりが見られた。週末を通してずっと、アディクトたちがありとあらゆるお国なまりで心からわかちあうのに耳を傾けていると、私たちはNAの精神が世界中に広がっていくを実感するようになった。アディクションは、国境も言語も海域も、いかなる障壁もお構いなしだが……回復となると話は別だ。しかし、ナルコティクス アノニマスでは今こうして、そのような壁がひとつひとつ取り外されたり克服されたりしつつあることがはっきりわかる。

RH (エディター)
NA Wayマガジン1985年10月号掲載

第18回ワールドコンベンション

かつての夢が、今は現実

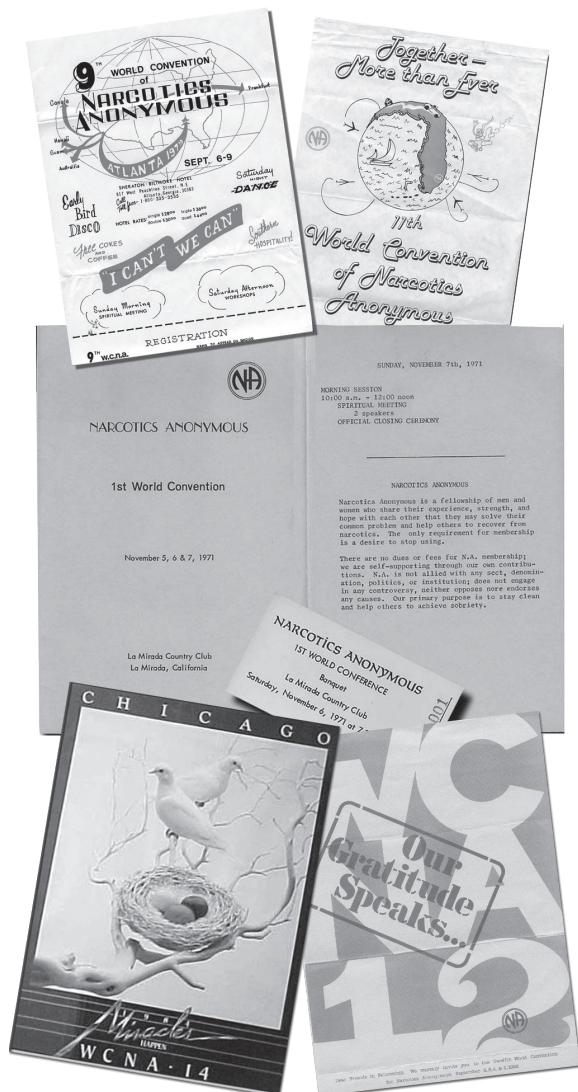
アメリカ合衆国カリフォルニア州アナハイム 1985

Critical Mass

これだけいけば、夢は現実になる

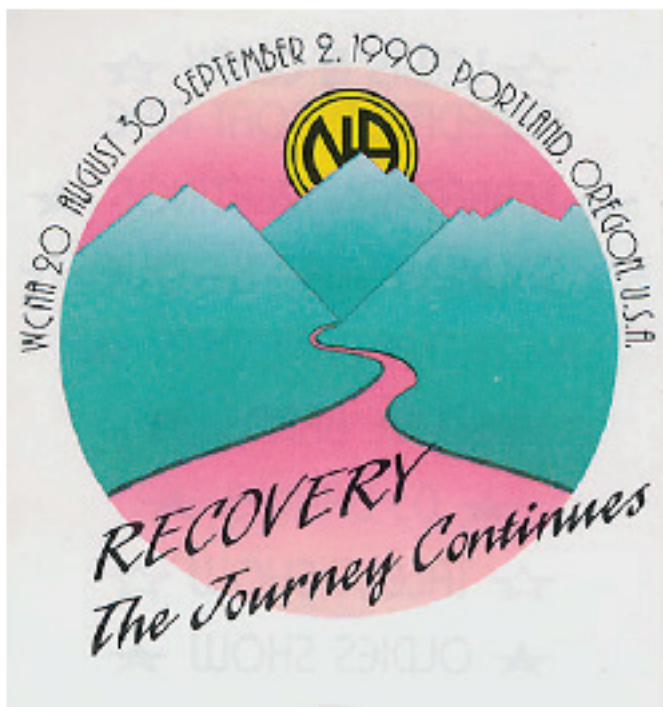
さあ、今度は、クリーンタイムのカウントダウンだ。女性が一人立ちあがった。27年のクリーンタイムは、この場では最 1988年の9月に開かれた第18回NAワールドコンベンションには、NA Wayのスタッフであるメンバーが携帯のレコーダー（録音機）をもって送りこまれた。このメンバーの仕事は、このイベントの精神をとらえてみなさんに伝えることであつた。あの場にいたみなさんには、ここで記憶をたどっていただきたい。そして、あの場にいなかったみなさんには、ここでその一部分をお伝えしよう。

こんなの、見たことないよ！ 第18回NAワールドコンベンションでは、土曜夜のバンケット（食事会）が終わって、これからいよいよスピーカーミーティングが始まる。ものすごい人数で、ホールはまさに満杯だ。このカリフォルニア州アナハイムのコンベンションセンターにあるホールは、もうほとんど競技場といってもいいくらい広い。フロア面積は10万平方フィート、7000人が優に座れるようになってはいるのに、それでも席が足りなくて、さらに2000人も回復しつつあるアディクトたちが後ろに立っているんだ……あ、点呼が始まった。今回は、アメリカ合衆国以外に13か国から仲間たちが参加している。



今、「カリフォルニア！」と呼び出しがかかった。ホールにいる参加者の4分の3が立ちあがったんじゃないかな。すさまじい歓声で、今にもコンベンションセンターの屋根が持ち上がりそうだよ。

長だ。2年から5年の間あたりで、立ちあがる人数が一気に増えてくる……・参加しているアディクトの90%が1年以上のクリーンタイムをもっていることは明らかだ。過去何年も、そういうわけにはいかなかったからな。さて、そろそろ、日数のカウントダウンだ。盛りあがってきたぞ。15日というカウントに、ぼくの隣に座っている仲間が生まれたばかりの娘を抱え上げた。それはもう、満場の喝采をさらったよ。



NA Wayマガジン1988年12月号掲載

第21回ワールドコンベンション 神からの贈り物

オーストラリア シドニー —— 1991

1年半ぐらい前になりますが、ミーティングに出席したら、わたしたちのGSR(グループ代表)から1991年のNAワールドコンベンションについて報告がありました。開催地は、なんとオーストラリア！ナルコティクス アノニマスという仲間の集まりがどれほど大きくなったかを考えて、驚くばかりでした……わたしは行くつもりはありませんでしたが、行くという人を何人か知っていたし、そういう人たちがいるというだけでワクワクしました。その旅が、まさに「神さまからの贈り物」になるだろうとわかっていたからです……

それからしばらくしたある日、いつも電話相談のボランティアをしているメンバーのひとりがオーストラリアでのコンベンションに出席しているので、わたしはその代役をするために家に帰りました。そして家に着くと、夫が玄関から出てきたのです。やはりコンベンションに主席しているパネルチェアパーソンの代役を務めに行くためでした。わたしたちはあとになってその日の出来事を話し合っているうちに、二人とも、たとえコンベンションに出席していなくても二人で参加するすべが与えられたのだとわかったのです。つまり、しっかり留守番をするってことでした。

アンジー・G (アメリカ合衆国/カリフォルニア)
NA Wayマガジン1991年11月号掲載

第22回ワールドコンベンション 自由を心に抱く

カナダ オンタリオ州トロント —— 1992

僕は今回、はじめてワールドコンベンションに参加したので、どうなることやらまったく見当がつかなかった。もちろん、ふつうのコンベンションより盛大だろうということはわかってはいたけど、僕はそこまで大きなイベントには参加したことがなかったから、ほんとにそんなにも違うものなんだろうかと思っていた。

…土曜夜のユニティデイを祝うイベントで目にした回復の道を歩むアディクトは5000人をくだらなかつただろう。それだけでも、初めてのことで…そして会場のごとでも、やはり違いが感じられた。メトロ・トロント・コンベンションセンターは、とても素晴らしい施設で全館禁煙になっていたんだ。発がん物質のない環境で回復に専念できるのは、本当にありがたいことだ…けれども、よく考えてみると、このコンベンションが僕にとってまたとない経験になったのは、会場のせいじゃない。一番大きな要因は、人々だと思う。それは…まさに世界の隅々からやってきた人々だった。

WCNA22は、僕にとって素晴らしい経験になった。今回のコンベンションが、典型的なワールドコンベンションであったのなら、僕はコンベンションに行くことをお勧めする。来年は、風の街、シカゴだ。もちろん、僕は行くよ！

PB (カナダ/アルバータ)

カルガリーエリア発行のニューズレター『フリースピリット (自由な精神)』
に掲載されたものを、

NA Wayマガジン1993年7月号に転載

“Portugal!”

「ポルトガル！」

俺たち4人は、ポルトガルのメンバーだ。このトロント・メトロ・コンベンションセンターのホールがあんまりでかいんで、ちょっとボーッととなっている。コンベンションは明日で終了だ。このディナーのあとには、クリーンタイムのカウントダウンがあり、それに続いてチェアパーソンが参加国の点呼をとることになっている。

このホールには、5000人以上のアディクトたちが席についている。何千年にもおよぶ回復だ。これだけの経験が全部集まったら、できないことはありやしない。ポルトガルは、英語を話さない国のなかで最大の代表団となってWCNA22に参加した。いきなり、スピーカーから声が響いてくる。「ポルトガル！」そして、立ちあがったのは俺たち4人だけではなかった。ほかにも4人、俺たちの横で立ちあがった仲間たちがいたんだ。この4人はカナダへの移民だが、心はポルトガル人なんだ。4人ともトロントでNAにつながり、歩みを続けてきた。その回復の道では、ポルトガル語版の『ベーシックテキスト』も役立ったんだ。

JO (ポルトガル)

NA Wayマガジン1993年2月号掲載

第27回NAワールドコンベンション

私たちの多様さは、私たちの強み アメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼ 1998

Planning for WCNA 27 begins

WCNA27に向けて計画に着手する

次回のワールドコンベンションWCNA27は、1998年9月3日から6日までアメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼで開催されることになる。考えてみると、1997年は26年間でNAのワールドコンベンションがない初めての年となることになった……WCNAが巨大化してしまったため、3年前のワールドサービスカンファレンスで動議が可決され、このコンベンションは2年おきに開催されるイベントとなったのだ。

WCNA27は、私たちの歴史のなかで最大のコンベンションの一つになるだろう。NAメンバーたちは14のホテルを満杯にして、事実上シリコンバレーを占拠することになる。会場は、サンノゼコンベンションセンターだ。土曜夜のミーティングとユニティデイを祝うイベントは、サンノゼ・アリーナで開かれる。ここなら、20,000席を確保できるのだ。

NA Wayマガジン1997年10月号掲載

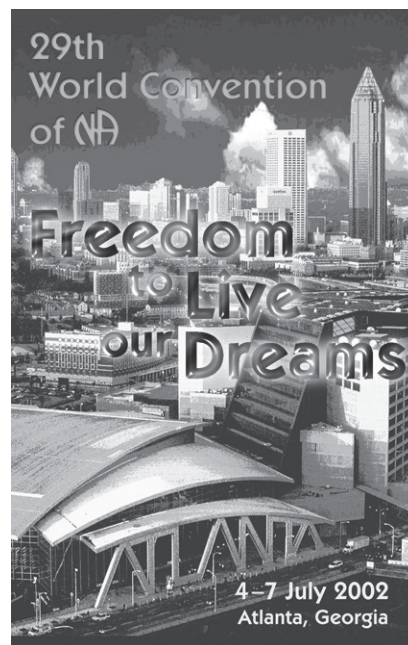
第28回NAワールドコンベンション 希望があるから、生きられる Nuestra Esperanza de Vida コロンビア、カルタヘナ —— 2000

今回はひとつだけ、えらく厄介な事態がもちあがった。コンベンションの開催期間が、偶然にも、アメリカ合衆国大統領ビル・クリントンによるコロンビア訪問の時期と重なってしまったのだ。マイク・P（NAワールドサービス コンベンションおよびイベント担当）に、そのいきさつを話してもらおう。

「私は、ホワイトハウスと国務省との電話連絡に何週間も費やした。先方はもともと大統領の訪問期間中にはカルタヘナ空港を閉鎖する計画でいたのだが、私たちはその期間中にその空港から発着する飛行機という飛行機に乗らなければならなかった。最終的に、この計画はうまくいった……しかしそのおかげで、大統領は予定より2時間遅れて訪問し、さらにコロンビア大統領は実際の会談に2時間追するということになった……というわけで、私はホワイトハウスにいるこちらとの交渉役に電話し、今回のことに関係のある機関ひとつひとつに電話をかけまくった。そして、ようやく大統領専用車に伴走する車に乗っている相手と携帯電話で話すことができたのだ。

NA Wayマガジン2001年1月号掲載

第29回NAワールドコンベンション



私たちの夢を生きる自由

アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ —— 2002

2002年6月6日の土曜日は気温が47度近くで湿度も急上昇し、アトランタではその年一番の猛暑日となった。CNNセンターには何千という数のアディクトたちが途切れることなく合流してくるため、ロビーがすし詰め状態になりつつあった……はっきり言って、あの夏の最も暑い週末にWCNAで3万人のアディクトたちが対処したようなことは、ふつうの人たちじゃ3万人いてもできやしないだろう。

NA Wayマガジン2003年7月号

第30回NAワールドコンベンション シンプルな方法であることが 証明されてきた

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ 2003

NA's Fiftieth Anniversary

NA50周年を「公式に」祝うパースデーケーキの大きさは、直径4フィートで高さが7フィート4インチにもおよぶものだった。メンバーの出席者数は、22,000人。122のホテルで、12,394泊分の部屋が埋め尽くされた。18,400人のメンバーが、土曜のユニティデイを祝うミーティングとNA50周年の祝典に出席した。

NA Wayマガジン2004年1月号掲載

第31回NAワールドコンベンション ひとつのフェローシップ、たくさんの仲間 アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル ―― 2005

知ってた？ 私たちの歴史のなかで初めて、WCNAのプログラムに主催地の政府関係者による挨拶が盛り込まれた。歓迎の挨拶を行ったのはハワイ州の知事、リンダ・リングル氏である。リングル氏はさらに知事による声明を発令して、2005年9月1日をナルコティクスアノニマス第31回ワールドコンベンションのアロハ・キックオフ・フェスティバル（幕開け）とすると宣言した。

NA Wayマガジン2006年1月号掲載

第32回NAワールドコンベンション 私たちが伝える希望、私たちに 約束される自由

アメリカ合衆国テキサス州サンアントニオ 2007

飛行機がついにサンアントニオに着陸した。降りてすぐ、ボクは手荷物預所に向おうとしたんだけど、一瞬、感謝の気持ちにとらえられた。空港の旗が目に入ったんだ。「ようこそ、WCNA32！」やったー！ 着いたぞ！！

NA Wayマガジン2006年1月号掲載

第33回NAワールドコンベンション アモール・シン・フロンテラス 国境を超える愛

スペイン、バルセロナ ―― 2009

Ron H shared "live posts" via his mobile phone during the convention. Ron H is, during the convention, using his mobile phone to post photos and videos of the workshop and speaker meeting on the internet. Here, he shares his experience of seeing the WCNA 33 flag in his hometown. "I was so proud to see the WCNA 33 flag in my hometown. It was a great experience."

BARCELONA, SPAIN NA Wayマガジン2009年10月号掲載



第34回NAワールドコンベンション 一体性の精神

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ 2011

参加した国の数、47か国。ニューカマーパッケージの数、900人。ニューカマーパッケージに並ぶメンバーが多いのを見て、自分の登録パケットを寄付した仲間の数、6人。NA Wayマガジンのレポーターがあちこち駆けずり回ってインタビューした人数、800人以上。カリフォルニア州の全矯正施設がユニティデイに初参加。

NA Wayマガジン2012年1月号掲載

第35回NAワールドコンベンション 旅は続く

アメリカ合衆国ペンシルバニア州フィラデルフィア
2013

NA Wayマガジンの乗月号をかわきりに、いろいろなことが続々と明らかにされるだろう。

A colorful graphic with the text "歴史を物語る WCNA関連グッズ" and "WCNA35でお安くお求めいただけます。". The background is a collage of various items like mugs, a globe, and a person. The text is in a mix of Japanese and English. Below the main text, it says "WCNA35でお安くお求めいただけます。" and "マグカップ、携帯マグカップなど、WCNAならではの特製品をお見逃しなく。自分へのごほうびや、友人へのプレゼント、スポンサーまたはスポンサーへの贈り物にもどうぞ。どのグッズも最終販売となるため、在庫にある数量が限られています。" and "JOURNEY Continues PHILADELPHIA".

歴史を物語る
WCNA関連グッズ
WCNA35でお安くお求めいただけます。
マグカップ、携帯マグカップなど、
WCNAならではの特製品をお見逃しなく。
自分へのごほうびや、友人へのプレゼント、
スポンサーまたはスポンサーへの贈り物にもどうぞ。
どのグッズも最終販売となるため、
在庫にある数量が限られています。



『伝統』に関する書籍のプロジェクト

『伝統』に関する書籍のプロジェクトについては、ひきつづき第一段階での作業を押し進めているところである。このような新しい資源づくりに共同で取り組むことに関して、NA全体が並々ならぬ熱意を示し続けてくれていることに感謝している。メンバーたちからはワークシートや文章が続々と寄せられており、世界中のNAでは www.na.org/traditions にあるプロジェクトのウェブページから入手可能なセッションプロファイルを使ってワークショップが開かれた。

また、2013年の4月にはプロジェクトの掲示板 (<http://disc.na.org/boards>) を開設した。メンバーたちには登録をお願いしたうえで、NAのサービスや日々の生活で私たちの原理を生かすさまざまなやり方について話し合いに参加してもらって

いる。

そのほかにも、2年という期間が進行していくにつれて、メンバーたちからの意見提供を12の伝統にまつわる経験に絞り込んでいけるようにしたいと考えている。プロジェクトのウェブページ (www.na.org/traditions) には、こちらで新たに作成したワークショップの資料が掲載されることになっているので、みなさんにはぜひ、機会あるたびに目を通していただきたい。そしてまた、NAWS最新情報のEメール配信によっても、このような新しい資料に関するお知らせを提供していく。NAWS最新情報については、www.na.org/subscribe で配信手続きができるようになっている。これまでにアイデアや資料を寄せていただいたり、掲示板での話し合いに参加していただいたり、みなさんのご協力には心からお礼を申し上げたい。これからも、このプロジェクトに関するみなさんの意見や質問が worldboard@na.org に届くのを楽しみにしている。

サービスシステムに関する最新情報

これまでの経過

このサービスシステムプロジェクトは、私たちの最も永続的な問題のいくつかに新たな解決策を見つけるために生まれた。私たちはいたるところで「エリアのから騒ぎ」に関する不満を耳にしているが、なぜ、サービスはときとしてそのようないわれのない非難を受けるのだろうか。だいたいからして、私たちはコミュニケーションを苦手とする傾向が多分にある。これでは信頼されるしもべたちがうまく育たないので、多くの役割に空きができてサービスは同じことの繰り返しになるため、重箱の隅をつつくような議論しかできないのだ。

もちろん、どこもかしこもそうだというわけではない。私たちの第一の目的や未来像に焦点を絞っているエリアやリージョンもある。つまり、共同で意思決定を行い、優先順位を定めて費用を割り振り計画的に進めているのだ。サービスシステム改革案では、このような成功事例に基づく地域サービスのモデルを提供して、エリアやリージョンが計画を実行しながらグループに力を注げるようにする。

今後の展開

現在、改革案による具体的なアイデアの実地テスト期間が終盤にさしかかっているが、私たちはすでに多くのことを学んだ。そのなかで最も重要なのは、私たちの個人的な回復に当てはまることはサービスにも当てはまるということ学んだことだろう。つまり、変化には時間がかかるということだ。プランニングをして予算を立ててからプロジェクトに取り組み、総意による意思決定をすることで場合によっては再構築する。このようなことは、多くのサービス機関が現在行っているやり方からの大きな変更である。新しいサービス提供のシステムがそれぞれの地域で適用された場合にはどのようなものになるかについて話し合うためにも、そして地域サービスの提供に関する要素を何もかもいっぺんに変更するのではなく、段階的に導入していくためにも、それぞれのNAで時間をかける必要がある。私たちは目下、カンファレンスアジェンダレポートに盛り込む資料とカンファレンスアブルーバルトラックに関する資料について検討している。どちらにも、この時間をかけて進めていくやり方が反映される。つまり、「革命」ではなく、進化をめざすのだ。

実地テストをはじめとしてプロジェクトのあらゆる側面に関する詳細や資料は、サービスシステムプロジェクトのウェブページ (www.na.org/servicesystem) と NAWS ニュースの最新号 <http://www.na.org/newsnews> でご覧いただけます。

ニュースレターの編集者および委員会のみなさん、協力をお願いします!

みなさんのエリアやリージョンでは、ニュースレターを発行していますか?

ぜひ、みなさんの活動をお知らせください。その際には、みなさんのEメールアドレスかメーリングリストもお忘れなく!

naway@na.org

NA Wayマガジン PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409

ニュースレターに関する経験の共有や問い合わせには、以下の掲示板をご利用ください。

<http://disc.na.org/servdisc>



CALENDAR

ここには、NAのホームページにあるイベントスケジュールをもとに数日にわたるイベントとその開催日程を載せてあります。参加申し込みや問い合わせについては、ホームページのスケジュールカレンダー www.na.org/events をご覧ください。(インターネットを利用していない場合には、ファクスまたは郵送で参加希望のイベントについてお問い合わせください。FAX: : 818.700.0700 郵送: 「NA Way」または「The NA Way」宛、Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

- ブラジル**
 パラ 8月29日～9月1日「第5回 ビレム エリアコンベンション」(会場) ホテル・ブリヴェ・ドゥ・アタラーヤ (場所) サリナス ビレム パラ (問い合わせ) Tel. 55. 091. 9215. 3371
 ペルナンブコ 8月30日～9月1日「第2回 アサプランカ エリア エンコンパツリ」(会場) ポウダールユ (場所) レシフェ (問い合わせ) donfilho@yahoo.com.br
カナダ
 アルバータ 9月27日～29日「第21回 カナディアン コンベンション」(会場) フォー・ポイント・バイ・シェラトン (場所) エドモントン (問い合わせ) registration@canadianconvention.com; www.canadianconvention.com
 プリティッシュ・コロンビア 10月25日～27日「第36回 パシフィック ノースウェスト コンベンション」(会場) コースト・プラザ・ホテル&スウィーツ (場所) バンクーバー (問い合わせ) www.pnwcna36.com
 ノバスコシア 7月15日～21日「第24回 アナポリス バレー エリア ビッグロースト & キャンプアウト」(会場) プロミドン・プロヴィンシャル・パーク (場所) プロミドン (問い合わせ) Tel. 902. 692. 1031
 オンタリオ 7月5日～7日「第5回 ジョージアン ハートランド エリアコンベンション」(会場) アールロウ・プロヴィンシャル・パーク (場所) アリントン (問い合わせ) Tel. 705. 305. 2192
デンマーク
 8月2日～4日「第6回 エリア ミッティアント コンベンション&キャンプ」(会場) オードニコン (場所) スカネルボル (問い合わせ) www.nakonvent.dk
フィンランド
 8月16日～18日「第25回 フィンランド リージョナルコンベンション」(会場) カンファレンス・ホテル・ライナアズマキ (場所) トルク (問い合わせ) www.nasuomi.org/25
ドイツ
 8月2日～4日「グルッパ ピース オブ マインド キャンピングコンベンション レイフ エリーゼ ダイ インゼル」(会場) キャンピングブラッツ・レットベルグソウ・ビーブリック (場所) ウィースバーデン (問い合わせ) www.na-mitte.de
ハンガリー
 8月9日～11日「ハンガリアン リージョナルコンベンション」(会場) GYIK イベント・セントレ (場所) ショブロン (問い合わせ) www.na.info.hu/events.html
イスラエル
 8月29日～31日「イスラエルリージョン 第13回 ディストリクト カンファレンス アット ザ デッドシー」(会場) メリディアン・ホテル・デッドシー (場所) エインボケック (問い合わせ) www.na.naisrael.org.il
日本
 7月5日～7日「第9回 リージョナルコンベンション」(会場) 京都パルス・プラザ (場所) 京都 (問い合わせ) jrcna.kyoto@gmail.com; www.najapan.org/jrcna/index
マルタ
 9月21日～22日「第7回 マルタ ナショナルコンベンション」(会場) ビバルディ・ホテル (場所) セント・ジュリアン (問い合わせ) www.namalta.org
メキシコ
 ティファナ 7月12日～14日「パハ・サン リージョナルアッセンブリ」(会場) カーサ・デル・レユニオン、AC (場所) ティファナ (問い合わせ) www.bajason-na.org
 2) 10月11日～13日「パハ・コスタ エリアコンベンション」(会場) グランドホテル・ティファナ (場所) ティファナ (案内) スピーカー録音テープ提出期限: 9月30日 / 宛先: パハ・コスタ エリア Box 435113; サン・イシドロ, CA 92143 (問い合わせ) www.bajason-na.org
ネパール
 7月8日～10日「第5回 ポカラ エリアコンベンション」(会場) サンティナガル・バンケット (場所) ポカラ (問い合わせ) www.paacna5th.weebly.com
プエルトリコ
 8月2日～4日「第24回 デルコキリージョン ウニドス ポデモス」(会場) ホテル・カリブ・ヒルトン (場所) サンファン (問い合わせ) www.namalta.org
スペイン
 9月6日～8日「第29回 NAヨーロッパカンファレンス&コンベンション」(会場) パラシオ・デ・コングレ・エクスボゼシオネ、マルバーリヤ (場所) マラガ (問い合わせ) www.eccna29.org
スイス
 7月5日～7日「第2回 ズリコンベンション」(会場) ゲマインシャフトセントラム・リースパツハ (場所) チューリッヒ (問い合わせ) www.facebook.com/na.zuerich
トルコ
 10月4日～6日「第11回 ターキッシュ エリアコンベンション」(会場) セロ・アンカラ・アルティネル (場所) アンカラ (問い合わせ) www.na-turkiye.org
英国
 8月9日～11日「第15回 グラスゴー エリアコンベンション」(会場) クラウン・プラザ (場所) グラスゴー (問い合わせ) Tel. 00447800834793
 2) 8月5日～12日「第2回 デボン エリア サマーホリデー キャンプアウト」(会場) ナップ・ハウス (場所) ビデフォード (問い合わせ) NAsummerholiday@groupspaces.com
 3) 10月11日～13日「第2回 マージサイド エリア 60 イヤーズ、ア ベーシックガイド トゥ リビンググリーン」(会場) リバポール・ホリデー・イン (場所) リバポール (問い合わせ) http://www.mana-ukna.co.uk/6.html
アメリカ合衆国
 アラスカ 10月11日～13日「第29回 アラスカ リージョナルコンベンション」(会場) バイクス・ウォーターフロント・ロッジ (場所) フェアバンクス (問い合わせ) www.akna.org/convention.htm
 アリゾナ 9月20日～22日「第15回 プロダクティブメンバー オブ ソサエティ グループ ウィメンズ リトリート [女性限定]」(問い合わせ) www.arizona-na.org
 アーカンサス 9月6日～8日「第5回 ビジョン オブ ホープ グループ セリオン アット プティジャン」(会場) プティジャン・ステートパーク (場所) モリルトン (問い合わせ) Tel. 501. 697. 0797
 カリフォルニア 8月9日～11日「第5回 サクラメント フェローシップ エリア TU ウィメンズ スピリチュアル リトリート [女性限定]」(会場) スコッツフラット・レザボア (場所) ネバダ・シティ (問い合わせ) Tel. 916. 812. 8537
 2) 8月30日～9月1日「グレーターモハベ エリア エンド オブ サマー バッシュ」(会場) ホースマンズ・センター (場所) アップル・バレー (問い合わせ) www.gma-na.org
 3) 9月20日～22日「セントラルコースト セレニティ アット ザ ビーチ キャンプアウト」(会場) ビズモビーチ・ステートパーク、ノースビーチ (場所) ビズモビーチ (問い合わせ) www.serenityunderthestars.net
 4) 9月27日～29日「第8回 エリア ドハブラヒスバーナ デル スールド カリフォルニア コンベンション [スペイン語]」(会場) ダブルツリー・ホテル (場所) オレンジ (問い合わせ) www.ahhsna.com
 5) 10月25日～27日「第27回 ウェスタン サービス ラーニング デイ」(会場) LAX ヒルトン (場所) ロサンゼルス (問い合わせ) www.todayna.org/wslid
 コロラド 10月4日～6日「第27回 コロラド リージョナルコンベンション」(会場) キーストーン・カンファレンスセンター (場所) キーストーン (問い合わせ) www.nacolorado.org/crcna
 フロリダ 8月23日～25日「第19回 サウスフロリダ リージョナルコンベンション」(会場) ウォルドルフ・アストリア・ネイブルス (場所) ネイブルス (問い合わせ) www.sfrca.com
 ジョージア 7月26日～28日「第31回 ビードモント エリア アンバーサリー」(会場) デイズ・イン (場所) メーコン (問い合わせ) http://sites.google.com/site/pascna/home
 2) 8月1日～4日「第22回 ミッドタウン アトランタ エリアコンベンション」(会場) ウェスチン・アトランタ・エアポート (場所) アトランタ (問い合わせ) www.midtownatlantana.com
 3) 10月18日～20日「第27回 ウェストエンド エリアコンベンション」(会場) シェラトン・ゲイトウェイ・ホテル (場所) アトランタ (問い合わせ) waltbrad60@yahoo.com
 ハワイ 9月27日～29日「マウイ エリア ギャザリング」(会場) キャンプ オロウル (場所) ラハイナ (問い合わせ) www.na-hawaii.org/activities.htm
 2) 10月24日～27日「第21回 ハワイ リージョナルコンベンション」(会場) ヒロ・ハワイアン・ホテル (場所) ヒロ (問い合わせ) www.na-hawaii.org/regional_convention.htm
 ニューヨーク 10月11日～13日「第18回 ウェスタン ニューヨーク リージョナルコンベンション」(会場) ホリデー・イン・グランド・アイランド・リゾート (場所) グランドアイランド (問い合わせ) www.nawny.org
 ノースカロライナ 7月19日～21日「第20回 ニューホープ エリアコンベンション」(会場) シェラトン・インペリアル (場所) グラム (問い合わせ) www.

newhopeconvention.com

2) 8月30日~9月1日「第35回 ニューホープ エリアコンベンション バスで行くWCNA35」(会場) オールドKマート駐車場 (場所) ダラム (問い合わせ) www.newhopeconvention.com

3) 9月27日~29日「第16回 セントラルピードモント エリアコンベンション」(会場) コンコード・コンベンションセンター アット エンバシー・スイツ (場所) コンコード (問い合わせ) www.crna.org/events/

オハイオ 9月13日~15日「ケンタッキー オハイオ リカバリー エリア フレンドリーパレー」(会場) キャンプ・オヨショニー・ステートパーク (場所) ウェスト・ポーツマス (問い合わせ) Tel. 740. 876. 1876

2) 9月20日~22日「第2回 スプリングフィールド エリアコンベンション」(会場) クオリティ・イン&カンファレンスセンター (場所) スプリングフィールド (問い合わせ) www.sascna.org/index.php/events

3) 10月11日~13日「ウーマン トゥ ウーマン コンベンション」(会場) クラリオン・イン&コンベンションセンター (場所) ハドソン (問い合わせ) www.wrascna.org

オクラホマ 9月13日~15日「ソグナ グループ ショーニー フォール コンベンション」(場所) ショーニー (問い合わせ) www.wasc.okna.org

ペンシルベニア 7月5日~7日「第22回 バトラー エリア スピリチュアル リトリート」(会場) クーパーズレイク・キャンプグラウンド (場所) スリッパリー・ロック (問い合わせ) butlerpana@gmail.com

2) 8月2日~4日「ダイヤモンド イン ザ ラフ グループ ガールトーク、ウイメン ユナイテッド [女性限定]」(会場) グリーンツリー・ダブルツリー (場所) ピッツバーグ (問い合わせ) Tel. 412. 867. 0394

3) 8月29日~9月1日「第35回 NAワールドコンベンション」(会場) フィラデルフィア・コンベンションセンター (場所) フィラデルフィア (問い合わせ) www.na.org

4) 9月27日~29日「第32回 リトルアップル エリアコンベンション」(会場) ロードウェイ・イン (場所) アレンタウン (問い合わせ) www.marscna.org

サウスダコタ 8月4日~11日「シエリダンレイク キャンプアウト」(会場) シエリダンレイク、ノースショア (場所) ヒル・シティ (問い合わせ) www.sdrna.com
2) 9月20日~22日「サウスダコタ リーショナルコンベンション」(会場) スピアフィッシュ・ホリデイ・イン・コンベンションセンター (場所) スピアフィッシュ (問い合わせ) www.sdrna.com

テネシー 8月9日~11日「第12回 ミドル テネシー エリア ユニティ コンベンション」(会場) ホリデイ・イン・オプリーランド/エアポート (場所) ナッシュビル (問い合わせ) www.unityconventionnashvilletn.org

テキサス 10月4日~6日「エスベランザ エリア フロリック イン ザ ウッズ」(会場) ガーナー・ステートパーク (場所) コンカン (問い合わせ) www.eanaonline.org

バーモント 8月15日~18日「第29回 グリーンマウンテン エリア バックトゥ ベーシックス」(会場) ウォリンフォード・ボーイズ・キャンプ (場所) ウォリンフォード (問い合わせ) www.gmana.org

バージニア 8月2日~4日「第24回 オールモスト ヘブン エリアコンベンション」(会場) 4Hエデュケーション・センター (場所) フロント・ロイヤル (問い合わせ) http://www.car-na.org/events.htm

2) 8月30日~9月2日「マリオン サバイバーズ グループ キャンプアウト」(会場) ハンガリー・マザー・ルター・リトリートセンター (場所) マリオン (問い合わせ) http://www.roanokena.org

ワシントン 9月20日~22日「第30回 スピリチュアル コネクション」(会場) デイセプション・パス・ステートパーク (場所) オーク・ハーバー (問い合わせ) http://www.npsana.org/index.html

ウィスコンシン 7月19日~21日「第29回 サウス サバーバン ファイアーサイド エリア PIG キャンプアウト」(会場) アップルリバー・ファミリー・キャンプグラウンド (場所) サマセット (問い合わせ) www.gotopig.org

NAWS Product Update

Arabic

مثلت الهاجس الذاتي

Item No. AR-3112 Price US \$0.22

Brazilian

Group Trusted Servants: Roles & Responsibilities
*Servidores de confiança do grupo
funções e responsabilidades*

Item No. BR-2203 Price US \$0.22



Disruptive & Violent Behavior

*Comportamentos
Perturbadores e Violentos*

Item No. BR-2204 Price US \$0.22

Danish

*Til forældre og værger
for unge i NA*

Item No. DK-3127 Price US \$0.28



Finnish

*The NA Step Working Guides
Nimettömien Narkomaanien
askeltyöskentelyopas*

Item No. FI-1400 Price US \$7.70



German

*Principles & Leadership in NA Service
Prinzipien und Führung im NA-Service*

Item No. GE-2206 Price US \$0.28

Greek

*Disruptive & Violent Behavior
Δυσλειτουργική & Βιαιή Συμπεριφορά*

Item No. GR-2204 Price US \$0.22

NA Groups & Medication

*Οι Ομάδες Του NA
Και Η Φαρμακευτική Αγωγή*

Item No. GR-2205 Price US \$0.28



Nederlands

De groep

Item No. NL-3102 Price US \$0.28



Door jonge verslaafden, voor jonge verslaafden

Item No. NL-3113 Price US \$0.28

Voorlichting in instellingen en het NA-lid

Item No. NL-3120 Price US \$0.22

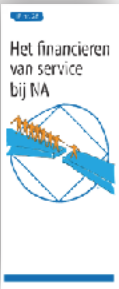
Geld telt zelfvoorziening bij NA

Item No. NL-3124 Price US \$0.48



Het financieren van service bij NA

Item No. NL-3128 Price US \$0.32



Norwegian

6th Edition Basic Text

Anonyme Narkomane

Item No. NR-1101 Price US \$11.00



Russian

Выздоровление и срыв

Item No. RU-3106 Price US \$0.22

Disruptive & Violent Behavior

Шумное и буйное поведение на собраниях

Item No. RU-2204 Price US \$0.22



Coming Soon

30th Anniversary Basic Text

to be available in September

The distinctive cover of this hand-numbered, limited edition features a bronze NA logo medallion in a field of deep red felvet, accented by tan leatherette. The cover opens to an onion skin page and an imaginative lenticular title page. Includes gold foil imprints, gilt page edges, two satin page-marker ribbons, and a handsome gift/display box. Our recovery journey continues with this special 30th Anniversary Basic Text.

Special Mugs

a Basic Text 30th anniversary and a *Living Clean* mugs will be available in September in limited quantities

eLit

Living Clean: The Journey Continues

will be available through Amazon and iTunes

eLit Books

Available on Amazon and iTunes

Amazon (all titles): <http://tinyurl.com/clolqzj>

iTunes (all titles): <http://tinyurl.com/9zj5f3x>

	Amazon		iTunes	
Basic Text	\$8.90	7.60€	\$8.99	7.99€
It Works	\$5.90	5.20€	\$5.99	5.49€
Sponsorship	\$5.90	5.20€	\$5.99	5.49€



This does not constitute an endorsement of or affiliation with these vendors.

